

令和4年度

山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業【真室川町】

◇団体紹介

真室川町は、山形県の最北端に位置し、総面積は、37,422haに及び、町総面積の約88%・32,859haを森林が占め、そのうち国有林が8割・26,231ha、残りの約2割・6,629haが民有林です。

また、里山の生活形態の変化等により以前より木に親しむ機会が少なくなったことから、次世代を担う小学生に対して森林資源について学習する場を提供するため、当事業を活用しています。



めこしきやま おお
女 飯 山 の大カツラ

◇活動内容

森や自然とのふれあい活動

町内の子供達が林産物へ親しむ機会を創出するために、「自然環境学習事業」として、町内2つの小学校で「木工クラフト体験教室」を開催し、木の枝やどんぐり、松ぼっくり等を使用して写真立てを作製しました。

また、学校林の利活用に備え、地域住民による「下刈り作業」を実施しました。

木工クラフト体験教室

(あさひ小学校)



(北部小学校)



木に親しむ環境づくり

県産材の魅力をPRするために「特用林産・県産材利活用事業」として「木製花壇、木製テーブル・ベンチ、観光用案内看板」を作製し、保育施設・登山道へ設置しました。

また原木なめこの消費拡大を目指し、普及啓発として、「原木なめこPRパンフレット」を役場庁舎や産地直売所等へ設置しました。

木製花壇



木製テーブル・ベンチ



観光用案内看板



豊かな森づくり活動

「野生動物との共生事業」として「クマ注意喚起チラシ」を作製し、町内全戸に配布し、出没箇所には「クマ注意喚起幟」を設置しました。併せて、人的被害・農作物被害を防ぐため鳥獣が頻繁に目撃される箇所にて「緩衝帯整備」を実施しました。

クマ注意喚起チラシ



クマ注意喚起幟



緩衝帯整備



◇活動の感想及び今後の展開

「森や自然とのふれあい活動」として、今後の活用が期待される「学校林の整備」と「木工クラフト体験教室」を関係機関からの協力のもとに実施し、森林資源の活用について学習する機会の提供が出来ました。

「木に親しむ環境づくり」として、県産材を活用し、木製花壇、木製テーブル・ベンチや観光用案内看板を製作し、こども園、保育園や飯山・加無山の登山経路へ設置することで、県産材の魅力を幅広くPRすることが出来ました。

「野生動物との共生事業」として、鳥獣の住処や経路となる箇所にて「緩衝帯整備」を実施することで、人的被害の防止に努めました。また、「ナラ枯れ被害林再生事業」として、以前、当事業でブナ・ナラを植樹した箇所を住民が下刈り等で適切に管理することで、ナラ枯れによる森林の荒廃を予防することが出来ました。

今後もさらなる森林整備に併せて、子どもたちへ森林や自然と触れ合う機会を増やせるよう体験型の事業に取り組んでいきます。